



あこう通信 ～「いい顔 いい声 いい心」～



発行：令和5年11月8日（水）NO.16 文責：副校長 津田幸一

学校HP URL <http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html> (2次元コードからどうぞ)

言葉を磨く(続)

若いころにある教育雑誌で見つけた児童作文です。一読して、文中に出てくる担任の先生が、私の小学6年生の頃の恩師と重なる思いがして、強い衝撃を受けたことを覚えています。

「偉大な力」

A子(6年生)

もうすぐ、出番がやってくる。運動会のかげっこ。A子には分かっていた。決して1番にはなれないことを。走り順で決まった組み分けである。見ている人も、もう結果はおわかりだろう。心臓のこ動が高鳴る。足ががくがくする。目がぼうっとする。コースラインがゆがんで見える。A子はあきらめようとしていた。

そのとき、ふと頭にうかんできた、担任の顔と言葉が。

このままでは、「ひきょうもの」になってしまう。そう思うと、急に力がわきあがってきた。

スタートラインに立つ。スターターのコールが聞こえる。A子は、キッとゴールラインを見すえた。

(児童作文)

さすが6年生が書いた作文です。

まず、自分の外に視点をおいて、自分の体験を書いています。

また、短い一文で、テンポよく書いていることで、作者の様子や運動会の情景が、うつり変わる映像として読み手に伝わってきます。競技スタート前に文を終えているのもいいですね。その後を読み手が想像します。

担任の先生が何を言ったのかも同様にあえて書いていません。これもそれぞれに想像が膨らみます。

そして、私は題名が秀逸だと思っています。

あえて、文中には出てこない、「偉大な力」としていません。これが伝えたいテーマなのでしょう。書かれていない「先生の言葉」こそ、「偉大な力」なのかもしれませんね。きっと作者は国語科が好きなお子さんでしょう。

さて、本題です。

「言葉」による教育。その大切さ・効果の大きさ。

この作文はこのことに改めて気づかせてくれます。成長途上の子どもたちに、私たち大人が、どんな言葉を与えているのか。これはとても重要であると思います。

NO.12でも、「言葉を磨く」ことを、2学期の重点目標としたことをお知らせしました。言葉は思考(その人の考え方)につながっていくのだと思っています。

ぜひ、わたしたち大人の言葉も大切であるという思いを共有したいところです。

御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

<新しい「あいさつレベル」>

- LV1 あいさつをされたら返すことができる
- LV2 自分からあいさつできる
- LV3 自分から元気な声であいさつできる
- LV4 「+1」あいさつ

●●さん、おはよう!

今日の給食はカレーだよ。楽しみだね!

新しいあいさつレベル表です。1学期末に教職員で話し合い、子どもたちの実態にあったものにつくり変えました。この表ができ、改めて指導をしているところです。現段階の子たちは、「レベル1：あいさつをされたら返せる」が最も多いように感じます。

もちろん、中には、すでにレベル3・4のあいさつができる子もおります。朝の立哨で出会う気持ちの良いあいさつに、私が元気をもらっています!

レベル3・4の子達については、ソーシャルスキルの4つの基本である「相手の目を見て」「ふさわしい表情で」「聞こえる声の大きさで」「近づきながら」も意識できると、さらにレベルアップしていくと思っています。

学校と家庭とで、一緒に「気持ちが良いあいさつが溢れる小榊小学校」を目指しましょう!



<12月予定>

1日(金) アウトリーチコンサート：6年生
4日(月) 学期末特別日課 ～8日(金)

給食後下校 13:40

22日(木) 終業式

12:15下校

※3学期始業式

1月9日(火)

